

2027年3月期第1四半期決算概要

		(連結)
	2026年3月期第1四半期	2027年3月期第1四半期
連結粗利益	118億円	131億円
四半期純利益	32億円	5億円
	2026年3月末	2026年6月末
貸出金残高	1兆7,457億円	1兆7,564億円
預金残高（譲渡性預金含む）	2兆1,329億円	2兆1,923億円
不良債権比率（銀行法及び再生法に基づく債権） （部分直接償却前）	1.67%	2.12%

- ◆ 円金利上昇にともなう預金金利の上昇により資金調達費用は増加したものの、貸出金残高の増加や高金利の外国証券への投資が奏功し、銀行の本業の収益力を表す連結粗利益は、前年同期比10.6%増の131億円になりました。
- ◆ 貸出金残高は、2026年3月末比0.6%増の1兆7,564億円になりました。また、預金残高（譲渡性預金含む）は、金利動向や運用とのバランスを勘案しながら調達を行い、2026年3月末比2.7%増の2兆1,923億円になりました。
- ◆ 7月10日のニュースリリースでもご案内の通り、取引先である株式会社全東信に対する破産手続開始決定がありました。当行は、2027年3月期第1四半期決算において、同社向け残存エクスポージャー40億円に対し全額貸倒引当金を計上した結果、四半期純利益は前年同期比で減少した一方、前述の通り、連結粗利益は増加しており、当行の収益力は着実に向上しております。本件が当行の財務健全性に与える影響は限定的です。